

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/25

米FOMCをにらみながら

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	豪第1四半期CPIに関心が集まる	2-3
		予想レンジ: 86.00 ~ 90.00 円	
<u>NZドル/円</u>	➡	RBNZは政策金利よりも声明に注目	4-5
		予想レンジ: 64.20 ~ 67.20 円	
<u>ランド/円</u>	➡	商品高で「リスク・オン」の動きか	6-7
		予想レンジ: 12.10 ~ 12.50 円	
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 4/18~22の主な推移



4/18 Monday	格付け会社S&Pが米国の格付け見通しを従来の「安定的」から、「ネガティブ」へと引き下げたことを受け、ドル/円が急落。またギリシャの債務再編を巡る懸念から、NYダウ平均が一時240ドル以上下落した。市場ではリスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は85.99円まで値を下げた(①)。
4/19 Tuesday	4月5日に開催された豪準備銀行(RBA)理事会の議事録が公表されたが、「第1四半期の国内総生産(GDP)は天候に関連した石炭生産の減少により押し下げられた」など早期利上げを匂わす内容は見当たらなかった。これを受け豪ドル/円は小幅安となった(②)。
4/20 Wednesday	早朝に発表された米半導体大手インテルの好決算を背景に、時間外のNYダウ平均先物の上昇に連れてアジア株も上昇すると、豪ドル/円は上昇した。また、この流れを受け続いて欧州株が上昇すると、豪ドル/円は88.46円まで一段と値を上げた(③)。
4/21 Thursday	豪第1四半期の生産者物価指数が前年比+2.9%と、予想(+2.7%)を上回ったことや、原油や金などの国際商品価格の上昇を背景に、豪ドル/円は88.54円まで上昇した(④)。しかし米新規失業保険申請件数や米4月フィラデルフィア連銀景況指数がいずれも予想を下回る弱い結果となると、ドル/円の下げに連れる形で豪ドル/円は87.57円まで下落した(⑤)。

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

今週の見通し

今週27日、豪州では第1四半期の消費者物価指数の発表が予定されている。本稿執筆時点での市場予想は前年比+3.0%、またRBAが注視している基調インフレ率は前年比+2.1%となっており、市場予想を上回る場合には豪ドル/円は買われやすいと見る。一方で下回るようだと、豪ドル売りが優勢となることも考えられる。

また、26日から27日にかけて米連邦公開市場委員会(FOMC)の開催が予定されている。市場では米連邦準備制度理事会(FRB)が景気に配慮して量的緩和第2弾(QE2)の6月末までの実施を確認するとの見方が強まっている。これを受けてドル安・米株高・資源価格高が進行するようだと、豪ドル/円には上昇圧力が働く可能性がある。一方で金融引き締め局面入りを示唆した場合、それを受けて株安が進行するようだと、豪ドル/円は弱含みでの推移も予想される。(川畑)

(予想レンジ: 86.00~90.00 円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

— 20日線 — 60日線 — 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

— +2シグマ — -2シグマ



●AUD/JPY 4/22週足引値:88.00円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は前週の始めには一時85.99円まで下落するも、その後反発。週足上では先週高値は88.54円(4/21)と、88.68円(4/11の週の陰線実体部1.88円の1/2戻し)を前に足踏みとなり、上値が重いと見られるが、日足では前述の85.99円をバックに底堅く推移するなど、方向感が入り乱れているだけに、どちらにも動けずに4/12につけた陰線内での小動きが続く可能性もある。

ボリンジャーバンドは4/22現在、上限:90.23円~下限:84.47円と、バンド幅は縮小に向かっており、上昇の動きは収まりつつある可能性を示している。

移動平均は20日線(4/22時点では87.35円)、60日線(同、84.23円)、200日線(同、81.49円)いずれも上向き。だが、ローソク足が20日線を下抜けるようだと、相場は弱含みで推移する可能性も出てくる。

上値ポイントは①冒頭で触れた88.68円、②90.00円(4/11高値)、③90.44円(2010年高値88.04円~同年安値71.85円の値幅16.19円を、3/17安値74.25円に加えた値)であり、下値ポイントは①引値レベルで87.35円(20日線)、②85.99円(4/18安値)、③84.23円(60日線)である。(川畑)

NZD / JPY

NZドル/円 4/18~22の主な推移



4/18 Monday	NZ第1四半期消費者物価指数は前期比+0.8%、前年比+4.5%といずれも予想(+1.0%、+4.6%)を下回った。市場ではNZ準備銀行(RBNZ)が年内は政策金利を据え置くとの見方から、NZドル/円は下落した(①)。またNY市場では格付け会社S&Pが米国の格付け見通しを従来の「安定的」から、「ネガティブ」へと引き下げたことを受け、ドル/円が急落。またギリシャの債務再編を巡る懸念からNYダウ平均が一時240ドル以上下落した。市場ではリスク回避の動きが強まり、NZドル/円は64.44円まで一段と値を下げた(②)。
4/20 Wednesday	早朝に発表された米半導体大手インテルの好決算を背景に、時間外のNYダウ平均の上昇に連れてアジア株も上昇すると、NZドル/円は上昇した。また、この流れを受け続いて欧州株が上昇すると、NZドル/円は66.28円まで一段と値を上げた(③)。
4/21 Thursday	米新規失業保険申請件数や米4月フィラデルフィア連銀景況指数がいずれも予想を下回る弱い結果となると、ドル/円の下げに連れる形でNZドル/円は65.24円まで値を下げた。(④)。

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

NZD/JPY

今週の見通し

今週28日早朝、NZではRBNZオフィシャル・キャッシュレートの発表が予定されている。市場では政策金利を2.5%にて据え置くとの予想がコンセンサスとなっており、政策金利発表後のボラードRBNZ総裁の声明に注目が集まっている。NZ経済について楽観的な見通しが示されればNZドル/円が買われやすいと見る一方、NZ経済の先行きへの懸念を強めるようだと、NZドル/円は弱含む場面も予想される。

また、26日から27日にかけて米連邦公開市場委員会(FOMC)の開催が予定されている。市場では米連邦準備制度理事会(FRB)が景気に配慮して量的緩和第2弾(QE2)の6月末までの実施を確認するとの見方が強まっている。これを受けてドル安・米株高・資源価格高が進行するようだと、NZドル/円には上昇圧力が働く可能性がある。一方で金融引き締め局面入りを示唆した場合、それを受けて株安が進行するようだと、NZドル/円は弱含みでの推移も予想される。(川畑)

(予想レンジ:64.20~67.20円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●NZD/JPY 4/22週足引値66.75円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は週足上では前々週にカラカサが出現。先週は下ヒゲの長い陰線が出ており、前々週と較べヒゲ・実体部共に下方に伸びていることから、上値は重い様子である。また日足上でも20日線が目と鼻の先にあり、引値レベルでも同線を下抜けると、相場は下値を試す展開となる可能性がある。

ボリンジャーバンドは4/22現在、上限:67.88円~下限:62.21円と、バンド幅は縮小に向かっており、目先の上昇の勢いは一服した模様である。

移動平均は20日線(4/22時点では65.04円)が下値支持として機能しているが、仮に引値レベルで割り込む場合、相場は下値模索の動きを強める可能性もある。なお下抜けた場合、60日線(同、62.73円)や200日線(62.42円)でサポートされるか注目したい。

上値ポイントは①66.71円(4/6高値)、②67.17円(2008年9月安値)、③68.69円(4/22時点での、2009年10月高値69.69円と、2010年5月高値69.34円を結んだ線)であり、下値ポイントは①引値レベルで65.04円(20日線)、②64.22円(1/27高値)~62.44円(4/18安値)、③62.73円(60日線)である。(川畑)

ZAR/JPY

ランド/円 4/18~22の主な推移



4/18
Monday

格付け会社S&Pが米国の格付け見通しを従来の「安定的」から、「ネガティブ」へと引き下げたことを受け、ドル/円が急落。またギリシャの債務再編を巡る懸念からNYダウ平均が一時240ドル以上下落した。市場ではリスク回避の動きが強まり、ランド/円は11.92円まで値を下げた(①)。

4/20
Wednesday

早朝に発表された米半導体大手インテルの好決算を背景に、時間外のNYダウ平均先物の上昇に連れてアジア株も上昇すると、ランド/円は上昇した。また、この流れを受け継いで欧州株が上昇すると、ランド/円は12.21円まで一段と値を上げた(②)。なお17時に発表された南ア3月消費者物価指数は前年比+4.1%と予想(+4.0%)を上回ったものの、市場の反応は薄かった。また20時に発表された南ア2月実質小売売上高は前年比+5.6%と予想(+7.1%)を下回るも、値動きは限定的となった。

4/21
Thursday

米新規失業保険申請件数や米4月フィラデルフィア連銀景況指数がいずれも予想を下回る弱い結果となると、ドル/円の下げに連れる形でランド/円は12.08円まで下落した(③)。

4/22
Friday

金の現物価格が史上最高値を更新すると、資源高が南アフリカ経済に恩恵をもたらすとの見方から、ランド/円はじり高で推移。その後12.22円まで上昇した(④)。

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今週の見通し

今週のランド/円は先週に引き続き、主要国の株価や金を始めとする商品相場の影響を受けやすいと見られる。これらが上昇してリスクを取る機運が高まる場合、ランド/円は底堅い推移が見込まれよう。一方で株価や商品価格が下落する場面では、ランド/円は弱含む場面も予想される。

また、26日から27日にかけて米連邦公開市場委員会(FOMC)の開催が予定されている。市場では米連邦準備制度理事会(FRB)が景気に配慮して量的緩和第2弾(QE2)の6月末までの実施を確認するとの見方が強まっている。これを受けてドル安・米株高・資源価格高が進行するようだと、ランド/円には上昇圧力が働く可能性がある。一方で金融引き締め局面入りを示唆した場合、それを受けて株安が進行するようだと、ランド/円は弱含むでの推移も予想される。(川畑)

(予想レンジ:12.10~12.50円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●ZAR/JPY 4/22週足引値:12.20円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は4/8高値(12.84円)の翌週に大陰線をつけるも、その翌週の下ヒゲが4/4高値12.84円~3/14安値10.50円の値幅2.34円の38.2%下押し(11.95円)を意識して反発しており、目先は底入れの可能性が出てきた。ただし、先週の下落でローソク足は20日線を下抜けており、同線が抵抗となるようであれば、相場反落の可能性もありえる。

ボリンジャーバンドは4/22現在、上限12.85円~下限:11.78円と、バンド幅が縮小。3月後半からの上昇トレンドが一服した模様である。

移動平均は20日線(4/22時点では12.311円)、60日線(同、11.83円)、200日線(同、11.86円)いずれも上向きとなっている。しかし、ローソク足は20日線を下抜けており、今後同線が上値抵抗として機能するようならば、相場は下値模索の動きを強める可能性もある。

上値ポイントは①12.31円(20日線)、②12.51円(4/13高値)、③12.84円(4/22高値)であり、下値ポイントは①12.06円(4/14安値)、②11.86円(200日線)~11.92円(4/18安値)、③11.67円(前述の値幅2.34円の1/2戻し)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/25~28)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/25 (月)			ウェリントン、シドニー、香港、フランクフルト、パリ、チューリッヒ、ロンドン(イースターマンデー)、南ア休場(家族の日)		
	23:00	○	(米) 3月新築住宅販売件数	25.0万件	28.0万件
			(米) 3月新築住宅販売件数 [前月比]	-16.9%	12.0%
4/26			シドニー休場(アンザック・デー)		
(火)	22:00	○	(米) 2月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.06%	-3.29%
	23:00	○	(米) 4月消費者信頼感指数	63.4	64.5
	23:00	○	(米) 4月リッチモンド連銀製造業指数	20	20
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
4/27			南ア休場(自由の日)		
(水)	10:30		(豪) 第1四半消費者物価 [前期比]	+0.4%	+1.2%
			(豪) 第1四半消費者物価 [前年比]	+2.7%	+3.0%
	15:00		(独) 5月GFK消費者信頼感調査	5.9	5.8
	17:30		(英) 第1四半期GDP・速報値 [前期比]	-0.5%	+0.5%
			(英) 第1四半期GDP・速報値 [前年比]	+1.5%	+1.8%
	21:30	○	(米) 3月耐久財受注 [前月比]	-0.9%	+2.0%
		○	(米) 3月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	-0.6%	+1.6%
	25:30	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00-0.25%	0.00-0.25%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
	27:15	◎	(米) バーナンキFRB議長記者会見	—	—
	未定		(独) 4月消費者物価指数・速報 [前月比]	+0.5%	+0.2%
			(独) 4月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.1%	+2.4%
4/28	—	◎	日銀金融政策決定会合	0.00-0.10%	0.00-0.10%
(木)	06:00	◎	(NZ) RBNZオフィシャル・キャッシュレートの	2.50%	2.50%
	08:01		(英) 4月GFK消費者信頼感調査	-28	-27
	08:30	○	(日) 3月全国消費者物価指数 [前年比]	±0.0%	±0.0%
		○	(日) 3月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	-0.3%	-0.2%
	08:30		(日) 3月失業率	4.6%	4.8%
	08:50		(日) 3月鉱工業生産・速報 [前月比]	+1.8%	-11.1%
			(日) 3月鉱工業生産・速報 [前年比]	+2.9%	-8.5%
	16:55		(独) 4月失業者数	-5.5万人	-4.0万人
			(独) 4月失業率	7.1%	7.0%
	18:30		(南ア) 3月生産者物価指数 [前年比]	+6.7%	+7.3%
	21:30	◎	(米) 第1四半期GDP・速報値 [前期比年率]	+3.1%	+1.8%
	21:30	◎	(米) 4/23までの週の新規失業保険申請件数	40.3万件	--
	21:30	○	(米) 第1四半期個人消費・速報値 [前期比]	+4.0%	+2.0%
	23:00	○	(米) 3月中古住宅販売保留 [前月比]	+2.1%	+1.5%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/29)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/29	—		東京休場(昭和の日)		
(金)	07:45	○	(NZ) 3月貿易収支	+1.94億NZD	+2.00億NZD
	15:00		(独) 3月小売売上高指数 [前月比]	-0.3%	+0.1%
			(独) 3月小売売上高指数 [前年比]	+1.1%	+1.2%
	17:00		(ユーロ圏) 3月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.0%	+2.2%
	18:00	◎	(ユーロ圏) 4月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.7%	+2.7%
	18:00		(ユーロ圏) 4月消費者信頼感・確報	-11.4	-11.4
	18:00	○	(ユーロ圏) 3月失業率	9.9%	9.9%
	21:30	○	(加) 2月GDP [前月比]	+0.5%	±0.0%
	21:30	○	(米) 3月PCEデフレーター [前年比]	+1.6%	+1.9%
	21:30	○	(米) 3月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.2%	+0.1%
		○	(米) 3月PCEコア・デフレーター [前年比]	+0.9%	+0.9%
	21:30		(米) 3月個人所得 [前月比]	+0.3%	+0.3%
	21:30	○	(米) 3月個人支出 [前月比]	+0.7%	+0.5%
	22:45	◎	(米) 4月シカゴ購買部協会景気指数	70.6	68.5
	22:55	○	(米) 4月シガン大消費者信頼感指数・確報値	69.6	70.0

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com